

ズルピッツ・ボアスレ自伝・書簡集抄訳・日記抜粋要約

柴田隆行・石川伊織 訳

石川伊織 編集・補注

凡例

- 1 以下の訳文は、ズルピッツ・ボアスレの書簡と日記から、芸術への言及がまとまってある箇所を任意に拾い集め邦訳したものである。ただし、ヘーゲルとの交流を明らかにするという、これとは別の目的で邦訳した箇所を統合したため、一部に芸術への言及がない箇所もある。当初の柴田訳の箇所と石川による増補および注を区別するため、適宜訳者名・注釈者名を記載する。
- 2 翻訳に使用したズルピッツ・ボアスレの書簡と日記の底本は以下の通り。

[A] 書簡

- ・ S.B. I: Boisserée, Sulpitz. Sulpiz Boisserée [Selbstbiographie, Tagebücher und Briefwechsel], mit Vorwort von Mathilde Boisserée, Bd. I. Cotta'scher Verlag Stuttgart. 1862.
- ・ S.B. II: Boisserée, Sulpitz. Sulpiz Boisserée [Selbstbiographie, Tagebücher und Briefwechsel], Bd. II. Stuttgart. Cotta'scher Verlag Stuttgart. 1862.
- a. タイトル頁にも詳細な書誌事項は記されていないが、おそらく Sulpiz の妻の Mathilde が序文のみならず編集も担当したものと考えられる。1862 年の初版に人名索引を付したファクシミリ版(Sulpiz Boisserée. Briefwechsel / Tagesbücher. 2 Bde. Faksimiledruck nach der 1. Auflage von 1862. Ergänzt durch ein Personenregister. Vandenhoeck & Ruprecht, Göttingen 1970.)が 1970 年に出版されているが、本翻訳の底本としたのは 1862 年の初版である。
- b. 後述の Briefwechsel mit Moller, Schinkel und Zwirner 巻末の索引での記述に従って、これを S.B. と略記しておく。Bd. I は 3-45 頁が自伝、45 頁以降は日記の中に大量の書簡集が挿入された形態をとっている。S.B. I の自伝部分は、柴田訳ではごくごく基本的な部分のみの抽出であったが、ここには、初期の収集活動とそれによって蒐集された作品への言及が含まれるので、石川の手で可能な限り翻訳することとした。Bd. II は全巻が 1810 年に始まる Goethe との往復書簡である。
- c. 一部、ヘーゲル往復書簡集から関係箇所を追加・邦訳した。訳文の一部に石川による改訳が含まれている。使用した底本は
 - ・ Briefe von und an HEGEL. Bd. I – IV. hrsg. von Johannes Hoffmeister. Felix Meiner Verlag, Hamburg. 1969-1981 (PhB. 235, 236, 237, 238a, 238b). BRH と略記し、原書の巻次と掲載ページ番号を添えた。
- d. これらとは別に、モラー、シンケルおよびツヴィルナーとの往復書簡集が公刊されており、そこから一部記事を収録した。底本は
 - ・ Sulpiz Boisserée. Der Briefwechsel mit Moller, Schinkel und Zwirner, hrsg. von Arnold Wolff. Köln 2008、ここからの記事には BZ と略記して原書の掲載ページ番号を添えた。

[B] 日記

- ・ TB. I: Boisserée, Sulpitz. Sulpiz Boisserée Tagebücher 1808-1854. Bd. I: Tagebücher I. 1808-1823. Im Auftrag der Stadt Köln, hrsg v. Hans-J. Weitz. Eduard Roether Verlag Darmstadt. 1978
- ・ TB. II: Boisserée, Sulpitz. Sulpiz Boisserée Tagebücher 1808-1854. Bd. II: Tagebücher II. 1823-1834. Im Auftrag der Stadt Köln, hrsg v. Hans-J. Weitz. Eduard Roether Verlag Darmstadt. 1981
- ・ TB. III: Boisserée, Sulpitz. Sulpiz Boisserée Tagebücher 1808-1854. Bd. III: Tagebücher III. 1835-1843. Im Auftrag der Stadt Köln, hrsg v. Hans-J. Weitz. Eduard Roether Verlag Darmstadt. 1983
- ・ TB. IV: Boisserée, Sulpitz. Sulpiz Boisserée Tagebücher 1808-1854. Bd. IV: Tagebücher IV. 1844-1854. Im Auftrag der Stadt Köln, hrsg v. Hans-J. Weitz. Eduard Roether Verlag Darmstadt. 1985
- ・ TB. IV: Boisserée, Sulpitz. Sulpiz Boisserée Tagebücher 1808-1854. Bd. V: Tagebücher V. Register. Im Auftrag der Stadt Köln, hrsg v. Hans-J. Weitz. Eduard Roether Verlag Darmstadt. 1995
- ・ Sulpiz Boisserée Tagebücher. Im Auftrag der Stadt Köln herausgegeben von Hans-J. Weitz. Provisorisches Register zu Band I 1808-1823. Eduard Roether Verlag Darmstadt. 1980

- a. [A] の第一巻 S.B. I には日記からの抜粋も収録されているが、書簡との違いは、記載事項に宛名や差出人が記されていないという程度のもので、内容も簡便な要約になっているものと思われる。こちらについてはそのまま翻訳することとし、書簡同様 S.B. I, S.B. II と略記の上、ページ番号を添える。
 - b. [B] で示した日記は全五巻・六冊からなる。本文の五巻は共通の装丁になるハードカバー本であるが、このうちの第一巻については、同一判型ながらステープラー綴じの索引が付属している。これを合わせて全五巻・六冊となる。第五巻は I から IV までの全巻索引である。
 - c. このうち、ヘーゲル存命中のものが上記の第一巻・第二巻、それ以後の記述が第三巻・第四巻となる。コレクションに含まれる作品への言及が、ヘーゲル没後にあたる第三巻・第四巻にも存在するので、これらについても可能な限り言及することとし、TB. I, TB. II.....と略記する。
 - d. 日記のこの刊本は、ズルピッツ・ボアスレの手書きの日記に基づくものであるが、第二巻冒頭に当たる 1823 年 7 月 1 日から 1826 年 1 月までの手書き原稿は失われている。この時期に関しては刊本の編者が作成した年表が挿入されており、この年表部分には頁番号の右肩にアスタリスクが付され、1 から 50 頁までとなる。1826 年以降の手書きの日記を活字化した部分はこれに続いて収録されているが、こちらは右肩のアスタリスクなしで新たに 1 頁から頁付けがなされている。したがって、第二巻の 1-50 頁にはアスタリスクありの頁となしの頁とが存在することとなる。この翻訳では、アスタリスク付きの頁は前後をアスタリスクで囲んで表示することとする。
 - e. 日記はいまだ著作権が切れていないので、そのまま翻訳を掲載することは不可能である。また、メモ書き程度の不完全な文章が大半をしめてもいる。したがって、日記への言及はここでは必要事項の要約とする。詳しい内容を検討したい場合は、ここに示したテキストを索引の代用として、原典に当たっていただきたい。
- 3 この邦訳を試みる目的は、ヘーゲル絵画論の共同研究（「ヘーゲル美学講義の絵画論の芸術哲学的な意義とボアスレ・コレクション」研究代表者石川伊織）にあるため、ボアスレの書簡ならびに日記の邦訳は、おおむねヘーゲル存命中のものに限定し、ヘーゲル死後の 1831 年末以降は必要最小限の補足箇所以外は訳出していない。
 - 4 ただし、Eduard Firmenich-Richartz, Die Brüder Boisserée. Erster Band: Sulpiz und Melchior Boisserée als Kunstsammler, Ein Beitrag zur Geschichte der Romantik. Eugen Diederichs Jena, 1916. の巻末に添えられた、1827 年にコレクションがバイエルン王へ売却された際の売り立て目録（Anhang III. Die Boisserée-Galerie, S.449-490）に対する編者（Firmenich-Richartz）の注記の中で言及されている日記および書簡集の該当箇所は、できる限り訳出することとした。すなわち、Firmenich-Richartz の言及箇所は、上記 3 の「必要最小限の補足箇所」に含むものとする。ただし、Firmenich-Richartz は手書きの日記の頁建てをもとに参照箇所を指示しているので、これを上記 TB. の巻・頁付けに修正して言及することとする。
 - 5 記述は年次順で、それぞれの項目の最初の数字は年月日（18080509 は 1808 年 5 月 9 日）、次の TB. は日記、S.B. は往復書簡集、すなわち出典であり、これに続くローマ数字は巻次である。頁番号には、どうしても必要な場合を除いて、あえて S. ないし P. の記号は振らなかった。
 - 6 画家の名前の読み方は、原文に従いドイツ語読みを基本とし、著名人は慣例に従った（例えばヨーハン・フォン・アイクではなくヤン・ファン・エイクなど）。現在一般的な呼称と大きく異なる場合は、原則として現在の呼称に従い、必要な個所には注を付す。地名も基本はドイツ語読みだが、著名な箇所は慣例に従い（たとえば Frolenz はフィレンツェ）、慣例ではないが現地読みした箇所もある（たとえば Gent はドイツ語読みはゲント、フランス語読みはガンだが、現地語でヘントと訳した）。いずれにせよ完璧に統一されていない。
 - 7 たとえば、Drei König（複数なので Könige となるはずだが）は直訳すると「3 人の王」だが、これは聖書にあるイエス誕生後に訪ねてきたいわゆる「東方の三博士」と慣例訳されている人を指していることは明らかである。必要な場合は原語を添えることとして、訳語は慣用に従う。作品名や画題については、地の文と区別するため、二重山括弧《》で囲むこととする。画題であるのかが判然としない場合は注記することとする。
 - 8 言及されている絵画がボアスレ・コレクションのどれを指すかがある程度推定できる場合は、Firmenich-Richartz 編の売り立て目録中の番号を KA (Kaufakt) の後に注記する。本サイトに掲載のボアスレ・コレクション全作品目録を参照のこと。この目録には、当該作品を所蔵している美術館・絵画館・またバイエルン州立絵画コレクションのサイトの URL を記してある。ほとんどの作品の画像はここから参照することが可能である。
 - 9 人名は、(1) WEB 上のサイト「Deutsche Biographie (<https://www.deutsche-biographie.de/>)」、(2) TB. V 掲載の人名索引、(3) BRH IV/2 掲載の人名索引、(4)『岩波世界人名大辞典』（岩波書店、2013）を主に参照した。